鈴木（すずき） 弘（ひろむ）（至誠）

高齢者の幸福度（ウェルビーイング）を高めるために

問 各年代における要介護度２以上の認定を受けている人の割合を伺う。

部長 令和６年６月30日現在、65歳以上70歳未満では108人で1.3％、70歳以上75歳未満では226人で2.3％、75歳以上80歳未満では352人で4.2％、80歳以上85歳未満では650人で9.9％、85歳以上では1,908人で29.4％。

問 85歳以上でも約７割の方は健康長寿といえる。65歳以上の健康な人に対して何か積極的な取組はあるのか伺う。

部長 元気な人たちに少しでも長く元気な状態でいていただきたいというのが私どもの目指すところ。スロトレ、脳トレとか、寄り合い処、出会いなどの集まりの場を提供するということに主眼をおいて取り組んでいる。

問 静岡市ではちゃちゃちゃ活動と称して、65歳以上の人を対象に介護人口を増やしたくないという目的でウォーキングなど様々な取組を行っている。富士宮市では、65歳以上の高齢の人のウェルビーイングを高めるためという目的で施策を組み立てれば、富士宮市の大きな特徴になるのではないか。

部長 静岡市の事業の特徴は、集まりの場に出てこられない人たちをターゲットとして明確に打ち出した点にある。富士宮市においてもその点を強化していかなければならないと考える。

問 北欧では、福祉は住宅に始まり住宅に終わると言われ、コレクティブハウスという形態が世界に増えているという。専用の住居と共有スペースがあって、生活の一部を共同化している住まい。参考にならないか伺う。

部長 市営住宅でも似たような住まい方ができると思う。目指していくべきと考える。

佐野（さの） 寿夫（としお）（公明会）

最近の葬儀の傾向と市の霊柩車を更新することについて

問 富士宮聖苑の利用状況は。

部長 令和５年度の実績で、聖苑の稼働日数は302日、火葬件数は1,707件、利用者数は３万5,255人、火葬件数については団塊の世代の高齢化により、今後さらなる増加が見込まれる。

問 市の霊柩車の現状と利用状況について。

部長 平成７年及び平成９年に購入した霊柩車を２台所有している。火葬件数に対しての過去５年の平均利用率は24.4％である。

問 霊柩車を更新することについて。

部長 利用者などから年式が古く時代にそぐわないなどの御意見もいただいている。今後の火葬件数の増加も見込まれることから、新規購入、業務委託、リース等の検討をする。

敬老会のお祝金の支給状況について

問 敬老会のお祝金の予算額、支給の流れと対象者の現状は。

部長 市は自治会に対して令和６年度交付金予算額7,137万4,000円を支出することで開催を支援している。市に住民登録があり年度内に77歳以上となる方のうち各自治会が対象者とした方、１万8,784人のうち、御自身または御家族の事情等、あるいは自治会に未加入などにより464人の方が対象外となっている。

問 公平に全ての対象者に支給できる方法は。

部長 市では令和６年度から敬老会実施交付金事業の見直しに着手している。案としては、77歳及び88歳の節目の年齢の方に、市が直接対象者個人へお祝金を支給する方法への変更と、各地域が実施する敬老会を含む高齢者関連事業への支援策の新設をたたき台として、自治会の皆様と検討を始めたところである。時代の変化に合わせた敬老会の在り方について検討していきたい。